

昭和12年(1937)7月7日、中国・北京郊外の蘆溝橋で一発の銃声が響いた。日中戦争の開始である。やがて13年には国家総動員法が公布され、日本は坂を駆け落ちるように軍事一色に染まっていく。もちろん新鶴村も例外ではない。毎日のように出征兵の壮行会や歓送がなされた。この「出征兵慰問写真帖」は、昭和13年5月に大沼郡新鶴村在郷軍人分会によって発行されたもので、一条俊夫氏の提供によった。裏表紙を合わせると全17頁。今となれば、後半の家族による記念写真が痛ましい。

